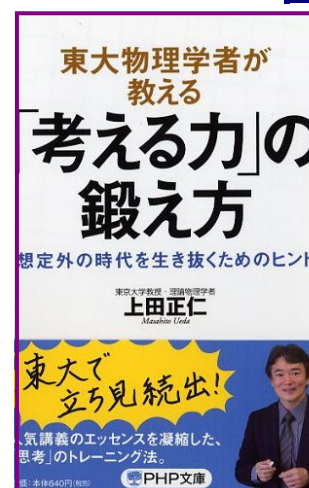


おすすめの本

PHP文庫（2017/3発売）
上田正仁【著】文庫版/240p

※現在在庫切れのため、図書館や古書店での取扱いのみ

東大物理学者が教える「考える力」の鍛え方 想定外の時代を生き抜くためのヒント



ジュニア会員の皆さんは、授業以外で何かのテーマについて、長い時間をかけて考えた経験や調査・研究を行った経験がありますか？ 最近では、問題解決型学習やグループワークなど、アクティブラーニング型の授業も増えてきていますが、いまだに高校、高専、大学での授業の多くは、受け身での知識伝達型が多いと思います。一方で、研究室に所属し、研究を始めると、先生や先輩の指導・助言を受けつつも、自分で考え、調べ、勉強することが基本になります。また、学校の試験や受験勉強では正解のある問題を解いていますが、研究や実社会における問題解決では、正解がわからない問題を解く必要があります。さらに、問題自体を自ら見つけ出すことが必要となる場合もあります。

この本では、まず、高校、大学、大学院または社会で求められる「優秀さの尺度」が、与えられた問題を規則に従って時間内に解く力である「マニュアル力」から、「考える力」、そして「創造する力」へと変化していくことと、その変化に意識的に対応する必要性について指摘しています。そして、問題の本質を見極める力である「考える力」と、問題を見出し、それを独自の方法で解決に至るまでやり遂げる能力である「創造する力」から成る「自ら考え、創造する力」が、先の見えないこれからの時代には必要不可欠な能力であると考え、その鍛え方について述べています。「自ら考え、創造する力」は、「問題を見つける力」、「解く力」、「諦めない人間力」の3つの要素から構成されるとして、それぞれの鍛え方について説明しています。「問題を見つける力」の章では、「地図メソッド」と呼ばれる方法で、何が分からないのかを明確にすることで、自ら解くべき価値のある問題を明らかにする方法について説明しています。インターネットで簡単に情報収集ができるため、情報収集に時間をかけてしまいがちですが、読み込んで理解し、自分の言葉で整理することの重要性について述べています。

この本で紹介されている内容の多くは、大学等で研究室に所属し、研究を始める際には何らかの形で学んだり、経験したりすることになると思いますが、通常の授業ではあまり聞かない内容ではないかと思います。「何が分からないかを明確にする」、「自分の言葉でもメモを取る」などは、普段から勉強する際にも役立つと思います。なお、紹介されている方法は一例であり、それらを参考にしつつ、試行錯誤しながら、自分に合った方法を見つけ出すことも重要です。

（宇部工業高等専門学校 三澤秀明）